

特44

107

板敷山

録

074915-000-9

特44-107

板敷山

高木 半/著

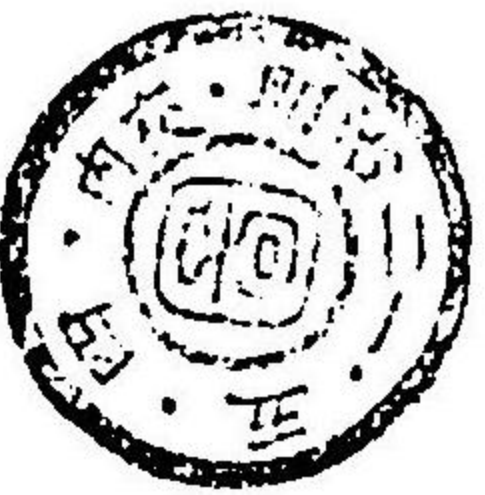
M21

CEL-0004





板敷山



常陸の板敷山乃峯にて採掘大  
 板敷を修し調伏の法を多行ひ  
 後小角乃末流此法を各圖つ  
 る新教も亦多し親鸞と之の法  
 師教より此國より専修念佛と  
 稱し易行此法を修く。庶生を惑と

我修驗道或障碍者。弘善心を  
憫たまひ。修驗をかく護し。彼親密を  
退け去りし。給(東方は降る世明王  
南方は軍荼利夜叉明王 西方は大  
威徳の王 北方は金剛夜叉明王  
中央は大日大聖不動明王 曩曇漢三  
曼陀嚩日羅南旋多摩訶嚩遮那

娑婆多耶。味多。那。呪。干。輪。見。我。身。者。  
教。美。提。心。用。我。名。者。斷。惡。修。善。聽。我  
説。者。得。大。智。惠。知。我。心。者。即。所。成。仏。と  
青  
所。願。を。さ。す。き。て。祈。り。祈。ま。さ。と。護。摩  
の。願。を。ま。さ。す。ぬ。い。各。等。異。此。恩。を。な。り  
お。ろ。不。思。儀。や。行。と。て。矯。ま。さ。す。ぬ。と。去  
井田白章  
あ。ろ。今。日。は。法。教。な。れ。い。よ。り。具。足。の

なまじひのひらき。先志す。体ひ給へ

<sup>浄</sup>何と彼法師も。事には多かりたる。

身浄のまゝのあはれと申す。いん作

文能浄ありきて有て。先母の悔浄。畏浄ひ

不浄儀也。我行法に強わらざる事は

あまよ。なと此度にも高證にありて

彼浄も大法を以てしる。此上の性来る

道よりしる。対果に給へ浄いん

家浄の宗解と。思辱慈悲を本と

き。同くあつり。殺害を事いん。

な浄ん。不動明王と利劔を以て。悪

大を降伏す。給ふ。彼法師もいん。

為よ。悪大あきは利劔を以て降

伏させん事。何れ若しいん。

我モも左様ニある也。そレもレ汝ニまシり

なリ。是レは修シ行スるニそレ。裏ニ果シんニ似テく

とシく思フまシ行ス。言ハ汝トも思フ者ナリ。

彼レ法ヲ汝ニ對シてシと。我レ慢ニ急ニ怒ニを

わシけテ。瞋ニ恚ニ妬ニ身ヲをコ

ろクす。胸ヲ相リをモろクしんと。亦レ物ヲ執ク

明カ日トまシ。曉ニけテ中ニ道ヲよクめテ汝ニ

糸ノ會ハ巧ニしんと。ちトひヲをナしテまシる

もトに板ノ敷ノ等ヲをリりキをシ。

上ノ文ノ起ル端ニ柔ク。光明ノ月ノ日ノは勝ル也。一ニて。起ル日ノ月ノをシと。

一ニとシや。者トもシや。何レの物ヲ執ル。教ハ一向ニ

念フ佛ヲよク今ノ生ヲも。夢ノ幻ノれノ假ノの世あり。

永ク来セ世ヲをナしめと。教ハ道ニ也ト。

一ニは皆レ念フ佛ノ由レ依ル事ト。偏ニ佛ニ也

カサヤ。南無河内院仙今の法堂を修入。

是より稲田へ廻りて寺と云ひし。如行の

うら。此の宿を中道下たををりし。

と云ふ。いよむ山路と通し。皆

こけの海へ。是を仰そ。直成

道と捨ちり。またとけあしあし。あま

心はまひはまの。中たたは通り

うきうと存ひ。かくトクかたよ古入敷るも。

まへにまのち。まは道とあし。はひて

こけ。田のれ。女と得給ひ。あま。我ら

も。修りた。為。あま。ま。げ。方。入。来。れ。人。と。

さ。か。り。た。ら。よ。入。給。ひ。く。て。不。思。境。よ。

え。の。中。道。下。後。一。村。細。を。通。さ。す。

事。以。く。稲。田。へ。庵。室。を。修。り。と。給。ふ。也。

奇特なる一 剛一 三尺一 此一 劍一 の一 光一

を一 氷一 手一 に一 あり一 一一 張一 り一 弓一 の一 勢一 月一

心一 よ一 當一 たり一 板一 敷一 山一 の一 音一 此一 志一 け一 こ一 ぶ一

隠一 き一 思一 へ一 待一 ち一 け一 り一 彼一 法師一 と一 何一

と一 して一 過一 ぎ一 せ一 是一 今一 之一 の一 一一 法一 堂一

終一 り一 又一 既一 小一 稲一 田一 入一 居一 居一 海一 の一 た一 ら一 由一

作一 こ一 ち一 り一 一一 や一 夏一 め一 こ一 よ一 び一 を一

み一 ち一 け一 ち一 一一 度一 も一 法一 師一 の一 姿一 を一 忍一 る一 事一

奇一 彼一 隱一 行一 け一 樹一 あり一 一一 ま一 ち一 神一

仏一 入一 が一 獲一 る一 事一 や一 作一 一一 神一 仏一 の一

極一 護一 あり一 一一 とも一 何一 種一 乃一 半一 れ一 る一 事一 きた一

い一 て一 け一 上一 は一 稲一 田一 一一 あり一 一一 対一 あり一 ち一

亦一 一一 事一 一一 我一 慢一 り一 弓一 を一 張一 り一 邪一

見一 の一 劍一 を一 横一 一一 ち一 稲一 田一 を一 け一 り一 一一 ち一

馳向上く 厨前法師とく之

行半上取るをちとうや 我上と年田と

いふ山伏也。おと家修驗道と祢

清して。障碍きく事。濁をめりよ

愚上やく。元来りも。祢清ハ佛ハ

只まめ。され露宿をゆ所くよ。妨

おせー事ハ事上 川上や信と信と

乃のまんとや。老角此同言無益あり。

念仏弘法を歩あつ。とくい國をたち

きへ上。けし信も汝物とせん

亦物とつ上く修驗者達と聖人を中

よ取上き 各静まりてよく聞

給上ま役り行者と。秋上き此ゆ青子

迦葉上者老の心再延なきハゆ所を



我も釈門の徒あり。まむ法は穢し  
意しての方便。念佛は淨院の本願。  
諸仏の如く千差万別あり。とくも  
捨つ法あり。あき相と。少少五智の宝  
冠を。つゝきたり。迷ひ給ふ愚あり。  
極重悪人。無他方便。唯稱淨院。得生極  
樂。南無あり。佛上掌と念を稱名

念佛し給へ。我慢物。凡此等も。害心。忽  
消滅して。後悔し。んきの。さ。ん。ゆ。き。ハ  
聖人も。歡喜する。給ひて。ある。も。お。ま  
教に。ま。し。あ。ひ。そ。有。難。き。上起端像に。よ  
去り。末法。よ。生。を。受。る。ま。い。親。を。を。教。す  
す。とも。妄。執。乃。雲。深。く。して。迷。ひ。ら  
海。よ。深。沈。く。煩。悩。業。苦。の。云。れ。網。に甲

はあきくも所れをくねくて 自カレ

ちうこれ及もぬい他カレ舟は法の端を

頼むより外はあがりきま 昔雄俊

とびく人死して冥途よどりたれ

獄率圖王はけあよあきおあがりて是

七度還俗る悪人ありとりきれた雄

俊也ーこやうアつらき海邊よちし時

一向は法院を頼まきたとひ五逆乃罪

人も一心よらう仏を頼まぬ救ひ給らん

惣教もも空しくは法院の全言虚

ああかたのうらまはしきひしは

夫圖王頂礼し急き仏をよ送るんよ

是れ中より光明かくやうし

法院仏影をまして雄俊を浄むよ

迎へ給ふとうや。例を有ぬ。迷ひ  
入雲を拂ひ安養界を教へよやと。  
教化あり。皆感激を流し。多ク  
有難やけよ。今此無心より  
給ひく。聖人より身子とありく  
きひ給へ。一念除障。昂減無量  
罪なき。頼きく。思ひまほしよ。

年月

娘やけり。供へく。念仏修む。おほ  
し。弓矢長刀投ぐ。ち。拂乃。深意  
ぬき。つて。墨衣を。身ままと。ひ。  
墨乃衣を。方に。ま。と。我。慢。れ。豪。お。け  
か。く。慈。悲。柔。輦。る。姿。と。な。り。明。法。房。  
澄。信。と。法。名。給。り。淨。土。真。宗。又。入  
よ。多。り。是。を。誠。に。法。院。佛。に。持。取。不

物著

捨る利益もく。等心等意もく。願を尊とかりある。

明治廿一年四月十九日出版

著作者 高木 才

發行者 藤田 静 七

印刷者 松井 新 五 師

